

## 130228 アオサギ

アカマツの木のてっぺんに大きな野鳥がいました。

一見、「ツル」にも似ていますが、名前は「アオサギ」といい、文字どおり「青いサギ」という意味ですが、実際には青みがかった灰色の羽毛で被われています。

全長は90 cm超、羽を広げると150 cm超、体重は1.5kgと、日本に生息しているサギの中では、最も大きい種だと言えます。

河川や池沼、干潟、水田などの水辺を好み、魚類や両生類、甲殻類、昆虫などのほか、小動物も食べているようです。

水辺で待ち伏せたり、浅瀬を歩き回りながら獲物を探し、発見すると縮めていた「首」を伸ばして、嘴（くちばし）ではさんだり、突き刺したりして捕食しています。

外見は「優雅」に見えるのですが、実は攻撃的な性質の持ち主で、特に餌場では羽毛や飾り羽を逆立てて、他の鳥を威嚇しているところを見たりします。

さて、今回、アカマツの樹上で見つけた個体、1羽ではなくカップルだったようで、交尾している姿もうかがえました。

今日で2月も終わり、いよいよ「春」を迎えるこの季節、野鳥たちにとっては「繁殖シーズン」の始まりなのですね。









